

岩手県恩徳金山鉱床について

奥海 晴*

1. 緒言

昭和28年8月10日から6日間、今後の探鉱の指導を目的とし、岩手県上閉伊郡恩徳金山の地表地質概査と坑内地質鉱床調査を実施したので、ここにその結果を報告する。

なお試料の分析は東北大選鉱製錬研究所竹内教授に依頼したもので、ここに深謝の意を表する。

2. 鉱区

登録番号 岩手県採登 521号
 鉱種名 金・銀
 鉱区所在地 岩手県上閉伊郡土淵村
 鉱業権者 仙台市大町1丁目97 国分 壮

3. 位置および交通

位置 岩手県上閉伊郡土淵村恩徳遠野駅の北東 15 km

交通 釜石線遠野駅より下閉伊郡小国村を経て同郡茂市村に至る県道があつて、国鉄バスが通じ、遠野駅より同バスで約15 km で恩徳部落に達し、それから1.5 km の金堀沢に鉱山事務所がある。

4. 沿革

鉱山側の資料によれば、本鉱山は往時南部藩により直営稼行された。明治維新以後民間に移り、明治36年より滝信四郎により稼行されて、新たに鶏声沢において新鉱脈を発見し、それまでの探掘坑とともに稼行して、かなりの産金をみたが、大正9年以降は休山した。同27年現鉱業権者の所有となり、同28年7月、従来の試録鉱区を採掘鉱区に切換え現在に至つている。28年4月より7月まで恩徳および朝日坑の取り明けを実施し、引続き探鉱および一部採鉱に従事している。現在貯鉱 20~30 t がある。

5. 地質

鉱山付近は古生層に属するホルンフェルスからなり、さらに地域の中央を南流する金堀沢よりその西側山地の

中腹にかけては混生岩が、また県道に小規模な石英粗面岩岩脈が分布している。

古生層は一般走向南北ないし N 15° W で、50° 西に傾斜している。主として暗灰色ホルンフェルスからなり灰色珪質凝灰岩を挟む。

混生岩は肉眼的に灰白色の細粒~中粒花崗岩質岩石であるが、鏡下に検すれば著しく混生現象がみられ、石英・正長石・斜長石・黒雲母・角閃石、ときに透角閃石のほか、随伴鉱物として榑石・燐灰石・ジルコン石・磁鉄鉱等がみられる。本岩は古生層と花崗岩質岩との混生により生成されたものと考えられる。

6. 鉱床

鉱床は上記混生岩およびホルンフェルス中の断層または裂かを充填した含金石英脈で、金堀沢上流の約 200 m および 550 m 地点に恩徳および能満の2鉱床がある。

6.1 恩徳鉱床

本鉱床は混生岩中に胚胎する石英脈で、走向はほぼ N 45° W で、南西あるいは北東に 70~90° 傾斜し、最大幅 2.5 m で局部的に分岐する部分を除いては1本の鉱脈である。これに交差する脈として恩徳坑口付近に走向 N 60~70° E で、80° 北に傾斜し、幅 0.2~0.3 m のものが1本みられる。恩徳坑は露頭の下部に開口し、1号坑の地並では北西に約 28 m 錘押し、その中間において4 m 切り約 8 m 錘押しした。その南東側は旧坑口であるが現在は崩壊している。1号坑の4 m 下部には2号坑道があり、恩徳坑口直下より北西および南東にそれぞれ約 55 m 錘押ししている。

朝日坑は恩徳坑口の下部約 26 m に開口し、坑口より約 80 m で同一脈の下部に着脈し、それより北西および南東にそれぞれ約 15 m 錘押ししている。

錘幅は恩徳坑口付近では 0.65 m、1号坑引立では 0.2 m、2号坑の南東引立では 0.15~0.2 m、また北西引立では 0.05 m および 0.08 m の2本に分岐し、いずれも狭くなつている。朝日坑の南東引立ではなお幅 0.5 m であるが、北西引立では天盤に幅 0.03 m あるにすぎない。鉱脈は2号坑の掘下り付近に硫化鉱がみられるほかはほとんど白色緻密質石英からなる。母岩の変質は珪化・緑泥石化作用のほかは著しくない。

含金・銀品位は今回の調査による試料では数カ所を除

* 仙台駐在員事務所

いて一般に低い。恩徳 1 号坑において坑口より約 1 m 付近で Au 30.3 g/t, 2 号坑において Au 50.2 g/t, この付近で Au 5~6 g/t を示す。2 号坑北西引立で鉱脈が 2 本に分岐する南西側の細脈 (0.05 m) は Au 46.7 g/t, Ag 5.7 g/t, 南東引立において Au 17.7 g/t, Ag 1.0 g/t, 朝日坑南東引立において Au 4.6 g/t, Ag 1.7 g/t を示すが、そのほかは 2 g/t ないし痕跡である。恩徳坑口付近の交差脈も品位は金・銀とも痕跡である。

6.2 能満鉱床

本鉱床では露頭がみられずたゞ古く採掘されて崩壊、陥没したと思われる凹地があるだけである。すなわち権現坑は崩壊した坑口より N 40° W に約 20 m, 大勝坑は西北西約 30 m の地点に開口し, N 60° W に約 10 m にわたり凹地をなし, さらに権現坑の北大勝坑の東において, N 60° E の方向に約 15 m にわたり凹地を呈している。

その後この下部に東方より能満坑が約 100 m 掘進された。こゝでは坑口より約 30 m の間は混生岩であり, それより奥は漸次黒灰色の珪化したホルンフェルスに移っている。裂かには種々の方向のものがみられる。30 m 付近に延長方向南北で, 西に 75° 傾斜し, 長さは 1.2 m, 最大幅 4 cm のレンズ状のものと, 引立で上方に尖滅する延長方向 N 40° E で, 80° 西に傾斜する幅 3 cm の石英脈をみるにすぎない。

以上のことから凹地をなす旧坑はいずれも錘押か立入か不明であるが, 恩徳鉱床の主脈の方向から推察すれば, 権現坑および大勝坑は錘押坑道ではなかつたかと思われる。もしそうだとすれば能満坑は権現坑の錘先をすでにすぎていると思われる。したがってして想定される位置に裂かを求めれば N 30° W で 62° 西に傾斜するものである。

7. 稼行状況

昭和 28 年 4 月から 7 月まで, 恩徳および朝日坑の取り明けに従事, 現在は恩徳 2 号坑掘下りの位置に切上るべく, 朝日坑北西錘押を実施中である。また恩徳 2 号坑の高品位部分も採鉱中である。坑外では朝日坑口より錘機据付位置まで斜距離約 260 m の簡易索道が架設完成されている。

8. 結 言

1. 恩徳鉱床について

現在のところ, 稼行の対象として考えられる部分は, 2 号坑下部で掘下りの位置より南東に約 20 m 付近までであるが, 朝日坑ではきわめて低品位であり, その範囲は限定される。

なお鉱脈の走向方向のうち, 1 号坑引立は品位および錘幅より期待しえず, また 2 号坑北西引立も品位および錘幅より期待しえない。2 号坑南東引立は品位錘幅とも一応錘押採鉱の必要がある。朝日坑南東引立は低品位ではあるが, 脈幅が 0.5 m あるので, なお採鉱の必要が認められる。

2. 能満鉱床について

本鉱床の今後の採鉱方針としてはまずさきに採鉱された主脈を確認することと, ついで地表が陥没凹地をなす旧坑を取り明けて, 鉱脈の状況を確認することである。つぎに主脈が確認されたならば能満坑を利用し, これより切上りを行なうべきものとする。旧坑の状況より, 古く恩徳金山として稼行されたものは, 本鉱床と想像されるので一応の採鉱価値は認められる。

(昭和 28 年 8 月調査)